

平成25年6月3日に、当院で高精度放射線治療システムが本格稼働したのに相まって、去る7月12日(金)に「高精度放射線治療の導入」をテーマとして、今年度、第2回目のがん診療連携拠点病院研修会が開催されました。はじめに、「当院での高精度放射線治療導入と初期制度の測定について」をテーマに、当院石田放射線治療係長(放射線治療品質管理士・放射線治療専門認定技師)から、昨年11月に導入された高精度放射線治療システムの稼働に至るまでの経過説明と、この移行期間中当院で照射できない患者さんの治療を引き受けて頂いた札幌医科大学病院の皆様への謝辞が述べられました。

次に、「初期臨床使用経験について」と題し当院放射線治療科高田医師から、新システム「強度変調放射線治療」や「画像誘導放射線治療」、「呼吸同期放射線治療」の稼働1ヶ月後の現状についてご報告頂きました。7月時点では、現在2人が治療中で、4人が治療開始待ちとなっております。今後経験を積むことでIMRT開始までの時間を短縮し、患者さんに優しく、より効果のある治療が出来るように目指しているとの発表がありました。

最後に特別講演「放射線治療の現状と今後」と題し、昭和大学医学部放射線治療科教授加賀美先生からご講演をいただきました。加賀美先生は、札幌出身で北海道がんセンターでのご勤務経験や、当院医師とも様々な関連をお持ちで、がん治療に長く携わっておられる先生です。

ご講演では、がん治療における放射線治療の役割について歴史的な変遷を含め、現在の治癒的ながん治療について解説いただきました。これまでの日本は胃がんが多く手術主体の治療方法でありましたが、昨今は欧米化、高齢化に伴い胃がんが急速に減少しつつあり、肺がん、前立腺がん、乳がん等が増えてきている背景があります。現在は、高精度放射線治療システム機器の進化により、高精度な照射技術が可能となり、これらのがん治療に対し手術以外の治療として、急速に放射線治療患者が増えている現状があります。現在、東京では放射線治療機器の増設が盛んであり、今後も、複数の診療科による、カンサーボード等集学的治療が普及し、放射線治療の役割がますます重要になっていくとのお話を頂きました。

院内・院外からは約70名(院外13名)の参加者があり、大変、盛況に終えることが出来ました。

今後も、当院では各種研修会の開催を予定しております。院内・院外問わず、どなたでもご参加出来ますので、皆様のご参加、お待ちしております。



加賀美先生の熱い講義

Letter
経営管理部 Part 3

札幌市営企業調査審議会平成25年度
第1回病院部会

経営企画課企画担当係長 田中 滋

6月18日午後6時30分より、市立札幌病院の講堂において、今年度1回目の札幌市営企業調査審議会の病院部会が開催されました。

札幌市営企業調査審議会は、市の公営企業に関する運営管理や財政状況などについて調査や審議を行う市長の附属機関で、病院部会は、医師会、看護協会、消費者協会等各種団体の役員、企業経営者、公募の市民委員など計11名で構成されています。

今回は、24年度から26年度までの中期経営計画である「市立札幌病院ステージアッププラン」の進捗状況と、25年度の病院事業会計の予算が議題となりました。

委員からは、近年の診療報酬改定に対応した種々の取組を評価する意見、業務の体制整備や工夫を求める意見、地域医療支援病院の認可を受け地域医療の充実に貢献することを望む意見、25年度の予算に掲げた数値の実現性に関する質問、26年度に完成する予定の非常用発電設備に関する質問、先進医療や高額医療機器の購入に関する意見、計画的な施設への投資を求める意見などが出ました。

なお、第2回の開催は12月頃の予定です。



会議の様様